



2021年4月13日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ 第33号

## 「喜びと不安と」

チャプレン トマス 河村博之

「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には、開かれる。」(マタイによる福音書7:7~8)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナの中で4月6日(火)、ベイシエラトンホテルで入学式を迎えることができました。昨年出来なかった新2年生にも5月1日(土)、同じ場所で、入学式が行われます。

わたしは、本学の卒業生です。入学は、1987年(昭和62年)。当時は、垂水の附属高校の隣にありました。静岡県から高校卒業後、1年間は、東京の予備校へ通い、第1志望の大学を目指しましたが、不合格でした。第3希望に本学を希望していました。3月の一般試験に合格し、慌ただしく大学生活をスタートしたことを、覚えています。観光学の勉強をしたいという希望がありました。当時は日本で観光学が学べる大学は、短期大学を含めても5校。そのうちの1校が、本学です。1972年に、経済学科に4つのコース制(経済・経営・貿易・観光)を設置。西日本ではパイオニアだったわけです。

しかし、初めての関西・神戸。食習慣・言葉も違うし、困ったなと心細くなった時、助けになったのが、チャペルでした。第1志望の大学と同じようなレンガ建ての建物に心が動き、訪ねていくと、チャプレンがおられました。「毎週火曜日と金曜日の昼休みに、礼拝があるから、いらっしゃい。」という言葉に誘われて、門をくぐったのが、チャペルとのキッカケ。その後のチャペル活動は、学生生活に大きな影響を与えました。

あれから30年余り。場所は六甲アイランドに変わりましたが、チャペルはあります。5号館、このキャンパスの正門から、一直線に伸びた道の先にそびえ立つチャペル。今度は、チャプレンとなったわたしが、皆さんをお迎えする番です。

みなさんの学生生活のうえに、主の祝福が豊かにありますよう、お祈りしています。

## 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り

\*どうか、皆さんもお時間があるときにお祈りください\*

### 神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。 アーメン

### 病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

### 離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。 アーメン